

# 防虫ネット全面被覆フルオープンハウスなら夏でも快適！

## [研究のねらい]

ハウス栽培でコナジラミ類など微小害虫の発生を防止するには目合い0.5mm以下の防虫ネット被覆が有効ですが、従来のハウスの側窓開口部にネットを被覆すると、通風性が悪くなりハウス内気温が上昇します。そこで、夏季でも快適に利用できるように高温化対策を確立します。

## [研究の成果]

- ①側面、天井面の外張りフィルムをすべて開放できる構造の「防虫ネット全面被覆フルオープンハウス」（写真1）なら、夏季晴天時の最高気温はネット無被覆のビニルハウス（天井面ビニル被覆、側窓開放）より低くなり（図1）、作物の生育も良好です。
- ②ハウス内の体感温度はネット無被覆のハウスと同程度で、ハウス内扇風機を利用するとさらに快適になります（図2）。

## [成果の活用面・留意点]

- ①目合い0.5mmの防虫ネット（商品名：ハイブリーズHB-50）を使用した結果です。ネットの目合いや素材によって効果が異なります。
- ②雨天時は、雨除けのために天井部フィルムを閉めます。



写真1 防虫ネット全面被覆フルオープンハウス

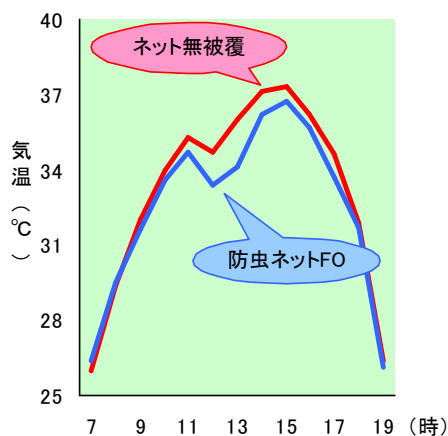


図1 夏季晴天日のハウス内気温  
(2004年8月11日、コマツナ栽培)

注) 防虫ネットFOは防虫ネット全面被覆フルオープンハウス

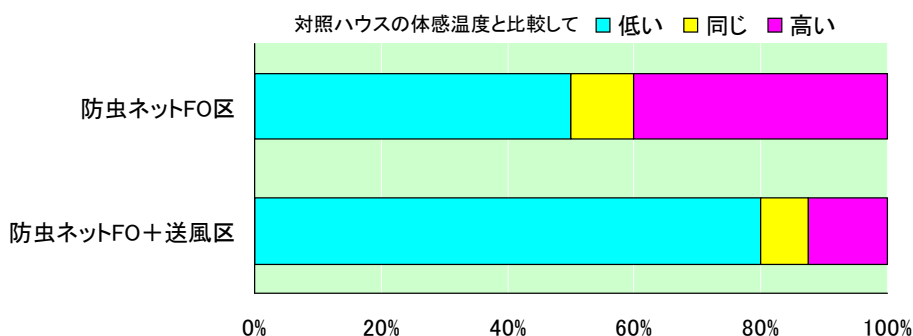


図2 防虫ネット全面被覆フルオープンハウスにおける体感温度（2004年8月、被験者40名）

注) 防虫ネットFOは防虫ネット全面被覆フルオープンハウス。送風区はハウス内扇風機で被験者方向に送風した。対照ハウスは、天井面にビニル被覆、側窓を開放し防虫ネットを被覆していない従来のハウス。

実施年度：平成12～16年

担当者：井口雅裕、福嶋総子、矢野貞彦